

# 令和5年度 港区政策評価シート

## 1 政策名・所管部門

政策No	8	政策名	環境に対する意識を高め、健康で快適に暮らせる生活環境をつくる
所管部	環境リサイクル支援部		関係部

## 2 政策のめざす方向性

有害化学物質の適正管理や事業活動に伴う騒音、振動、悪臭などの発生を防止し、誰もが健康で安全に快適に過ごすことができる生活環境を確保します。誰もがまちのルールを守り、快適に過ごすことができる良好な環境をめざし、区民、事業者など多様な主体との連携による環境保全・美化活動を推進します。子どもから高齢者まで誰もが環境について気軽に学ぶ機会や情報提供を充実し、区民一人ひとりが環境に対する意識を高め、環境に配慮した行動を実践することができる地域づくりをめざします。

SDGsとの関係									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
21.5%	43.8%	23.2%	25.8%	A	

これまでの取組と成果  
社会動向の変化や区民ニーズを把握し、誰もが健康で安全に快適に過ごすことができる生活環境を確保するための施策に取り組みました。

課題と今後の方向性  
※未達成の場合は原因分析を含む  
コロナ禍で対面、集合型の事業活動が制限される中、SNS等を活用するなど、区民等への環境に対する意識啓発を継続して実施しました。今後は、活動再開に合わせ、これまでの参加団体のみならず新たな団体にも積極的に参画してもらえよう周知、啓発に取り組みます。

## 4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	環境美化活動の推進	環境美化活動・キャンペーンへの参加者数	E
②	健康で安全な生活環境の確保	公害苦情件数	A
③	環境教育・環境保全活動の推進	各事業のアンケート結果において参加者が新たな学びがあったと感じた割合	A
④			
⑤			
⑥			

## 5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	921,233	1,026,657	1,172,357
流用・補正	188	-14,450	-
決算額	879,736	944,155	-
執行率	95.48%	93.28%	-

## 6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍においては、集合形式による環境美化活動が制限されました。</li> </ul>
<p>区民ニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区民意識調査</li> <li>・区民から寄せられた意見など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化活動については、集合形式による実施再開を求める声が多く届いています。</li> </ul>

## 7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<p>環境美化活動の推進については、新型コロナウイルスの影響を受け、施策の目標達成は困難な状況ですが、健康で安全な生活環境の確保及び環境教育・環境保全活動の推進については、両施策とも目標値を上回る見込みであり、政策全体としては、成果指標の目標値を大きく上回り、達成しています。</p>
<p>達成状況の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の有効性が高かった点</li> <li>・施策の有効性が低かった点</li> <li>・外部要因の影響を受けた点など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康で安全な生活環境の確保」 工事や大きな音が発生する機器の設置など、公害の発生要因に対して、公害の発生前に事業者等を指導したことで、公害対策が改善、強化され、周囲への影響が小さくなりました。</li> <li>・「環境教育・環境保全活動の推進」 環境問題への関心が高まる中、イベントや講座など、毎年アンケート等により新たな内容を取り入れ、生活に身近な省エネやリサイクル、著名人を招いての講座の開催など、多くの学習の場を提供したことが、参加者から高く評価されました。</li> </ul>
<p>課題と今後の方向性</p>	<p>政策全体の成果指標では、目標値を大きく上回っていますが、施策「環境美化活動の推進」においては、コロナ禍で活動が制限され、実績に大きな影響が生じました。</p> <p>今後、地域での集合形式の環境美化活動は徐々に再開され始めていますが、コロナ禍前の活動状況に戻るには、一定の時間を要すると推察されることから、引き続き、SNSを活用した活動を啓発するとともに、町会・自治会、企業等の意見を参考に参画しやすい体制整備にも取り組めます。</p>

## 8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>C：政策目的を達成するために改善が必要である。</p>
<p>政策の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化活動の参加者数の伸び悩みについては、新型コロナウイルスの影響があったものの、周知・啓発方法にも改善の余地があります。</li> <li>・区の環境学習事業の認知度の更なる向上が望まれます。</li> </ul>
<p>今後の政策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点的に取り組むべき施策など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境意識の向上については、ナッジによる行動変容やSNS活用など新たな取組を検討する必要があります。</li> <li>・子どもや事業者などの環境学習に関する様々なニーズを捉え、他の自治体との更なる連携等、社会資源を活用した取組を検討する必要があります。</li> </ul>

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外



成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。



## 2 施策評価

評価	E：現状見込値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。
施策の達成状況	新型コロナウイルスの影響を受け、目標に対して実績が大きく下回りました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	環境美化活動はこれまで集合形式で、町会・自治会、企業等の方々に継続して参画してもらうことが有効性を発揮する大きな要因でした。 しかしながら新型コロナウイルスの影響を受け、活動が制限され、環境美化活動の実施回数が減少せざるを得ない状況下であったことから、施策の実績が大幅に下回りました。
課題と今後の方向性	地域での集合形式の環境美化活動は徐々に再開され始めていますが、新型コロナウイルス流行前の活動状況に戻るためには、時間を要すると推察します。引き続きSNSを活用した活動を啓発するとともに、町会・自治会、企業等の意見を参考に活動に参画しやすい体制整備にも取り組みます。

- A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。  
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。  
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。  
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。  
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。



# 施策評価シート

政策No	8	政策名	環境に対する意識を高め、健康で快適に暮らせる生活環境をつくる		
施策No	2	施策名	健康で安全な生活環境の確保		
目標・期待する成果	公害等の苦情を正確に把握し、事業者などに対して法令等の規制基準に基づいた指導を適切かつ速やかに行うことにより、騒音・振動・悪臭などのない生活環境を確保し、全ての人々が健康に生き続けられるまちをめざします。				
SDGsのゴールとの関係	 				
施策担当課	環境課		関係課		
担当者名	奥村	内線	2490		

## 1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
公害苦情件数	543件/年	397件/年	329件/年	300件/年	330件/年	300件/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	解体現場等の騒音・粉じん等の対策のために、工事開始前の立入検査を行いました。また、騒音等の公害が発生しやすい施設については、大きい音が発生する機器等の設置位置や、騒音の予測値について事前相談を徹底して行ったことにより、令和2年度と比較して苦情件数が146件減少しました。		公害苦情の早期解決には、各地区総合支所との情報共有が重要となります。今後も工事開始前の立入検査や事前相談を継続し、解決に向けた対応の経過を情報共有することで、区内の公害苦情件数の更なる減少に取り組んでいきます。		
令和4年度	a	解体現場等の騒音・粉じん等の対策のために、工事開始前の立入検査を行いました。また、騒音等の公害が発生しやすい施設については、大きい音が発生する機器等の設置位置や、騒音の予測値について事前相談を徹底して行ったことにより、令和3年度と比較して苦情件数が68件減少しました。		公害苦情の早期解決には、各地区総合支所との情報共有が重要となります。今後も工事開始前の立入検査や事前相談を継続し、解決に向けた対応の経過を情報共有することで、区内の公害苦情件数の更なる減少に取り組んでいきます。		
令和5年度	a	解体現場等の騒音・粉じん等の対策のために、工事開始前の立入検査を行います。また、騒音等の公害が発生しやすい施設については、大きい音が発生する機器等の設置位置や、騒音の予測値について事前相談を徹底して行います。		/		

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。    b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c : 中間目標値に到達する可能性がない。                    - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

## 2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>届出書の受付時や工事開始前の立入検査時に、工事業者等に対して公害防止の方法等を指導しました。また、騒音等の公害が発生しやすい施設等を設置する事業者等に対しては、事前相談を徹底して行いました。</li> <li>施策の評価は、苦情件数が減少傾向にあり、成果指標の計画目標値を達成する見込みのため、Aとしました。</li> </ul>
達成状況の要因 <ul style="list-style-type: none"> <li>取組の有効性が高かった点</li> <li>取組の有効性が低かった点</li> <li>外部要因の影響を受けた点など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工事や大きな音が発生する機器の設置など、公害の発生要因に対して、公害の発生前に事業者等を指導することで、公害対策が改善、強化され、周囲への影響が小さくなっています。</li> </ul>
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>公害苦情の早期解決には、各地区総合支所との情報共有も重要となります。今後もこれまでの取組を継続するとともに、苦情が発生した場合は、事業者にも更なる指導を実施し、解決に向けた対応を促し、支所と経過を情報共有することで、区内の公害苦情件数の更なる減少に取り組んでいきます。</li> </ul>

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。  
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。  
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。  
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。  
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

# 施策評価シート

政策No	8	政策名	環境に対する意識を高め、健康で快適に暮らせる生活環境をつくる
施策No	3	施策名	環境教育・環境保全活動の推進
目標・期待する成果	環境に関する様々な問題を自分の問題として考え、主体的な行動を促すため、環境と暮らしの関わりを学ぶ機会を提供するとともに、自主活動を行う多様な主体を支援することで環境保全活動を推進します。		
SDGsのゴールとの関係	      		
施策担当課	地球温暖化対策担当		関係課
担当者名	秋葉	内線	2495

## 1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
各事業のアンケート結果において参加者が新たな学びがあったと感じた割合	88.7%	97.8%	94.9%	96.0%	90.0%	90.0%
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	新型コロナウイルス感染症の影響により、エコライフ・フェアをオンライン開催し、あきる野環境学習については、港区で開催する出張型の講座を実施しました。あわせて、みなと区民の森のPR動画を作成しHPで公開しました。それぞれ、新たな学びがあったと非常に高い回答を得ています。		みなと区民の森のPR動画をエコプラザ等で開催する環境学習で広く活用するとともに、教育委員会と連携し、自然教育を学ぶ授業で本動画を活用するなど、各種環境学習を推進します。また、エコプラザでは講座受講者等からのアンケートより、要望の多い内容の講座を検討するなど、新たな学びの場を提供します。		
令和4年度	a	対面による事業の実施が緩和され、エコライフ・フェアをはじめ各事業に多くの区民等が参加しました。また、みなと区民の森のPR動画をエコプラザや三田図書館のサイネージで放映する他、みなと科学館との連携講座を実施しました。あわせて、参加者の要望を受け、新たに親子で参加できる幼児向け講座やゴミに関する展示など、環境保全について関心を持ち学習する場を新たに提供しました。		エコプラザでは脱炭素、資源回収による循環、生物多様性など講座の内容を偏ることなく実施するほか、みなと区民の森の自然環境調査の結果を踏まえ、動植物の観察など自然環境学習の情報を広く周知し、より多くの方に環境学習に参加していただくよう取り組みます。		
令和5年度	a	令和4年度に実施した港区環境基本計画改定のための基礎調査のアンケートでは、区の実施している環境学習事業について「知らない」との回答が多くあります。環境に関する様々な問題について学習する、講座やイベント等の情報を広く周知し、より多くの方に参加していただくよう取り組みます。環境保全活動の事業に参加し、環境問題を自らの問題として考えていただく機会を提供します。				

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。 c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
令和3年度						
令和4年度						
令和5年度						

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。  
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

## 2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコプラザでは誰もが楽しみながら気候変動問題を学べる実験を兼ねた講座の実施や、みなと区民の森を活用した自然環境学習など、様々な手法で環境問題を学習する場を提供し、目標に掲げる新たな学びがあった割合が達成されました。</li> <li>・施策の評価は、成果指標の計画目標値を達成する見込みのためAとしました。</li> </ul>
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境問題への関心が高まる中、イベントや講座など、毎年アンケート等により新たな内容を取り入れ、生活に身近な省エネやリサイクル、著名人を招いての講座の開催など、多くの学習の場を提供しました。</li> <li>・その結果、成果指標「各事業のアンケート結果において参加者が新たな学びがあったと感じた割合」について、多くの参加者から高い評価をいただき成果を得られました。</li> </ul>
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区の実施する環境学習事業を広く知ってもらうよう取り組みます。</li> <li>・各事業において、脱炭素、気候変動、ごみ・資源循環、水と緑のうらおい、生物多様性等の新たな講座等を取り入れ、多くのカテゴリーが学べ、そして体験できる環境学習事業を展開します。</li> </ul>

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。  
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。  
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。  
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。  
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。